

# 教師支援のこれから

## ナラティブ・セラピーに基づく 実践事例をもとに

駒沢女子大学心理学類准教授

公認心理師・臨床心理士

**綾城初穂**

# 同僚性の重要性

生徒指導では、教師間の

## 受容的・支持的・相互扶助的な人間関係が大事(2)

- 気軽に話ができる／相談に乗ってもらえる
- 何かあった時に助けてもらえる／一体的に動ける
- 意見を交わして学び合える
- 専門職としての成長やメンタルヘルスの維持に役立つ



## …が、現実にはかなり難しいのではないかな

- みんな忙しくて申し訳ない
- 批判や評価が気になるし、指導方法や教育観も違う
- 問題解決や即時的な効果が求められる
- 休憩すらままならない



# 「問題」の「原因」としての教師

もめごと

ケンカ

暴力

イジメ

学級崩壊

対人関係の悩み

不登校



「問題」は、その生徒、その親、その教師にある

指導力？ 資質？

人格や性格？

本質主義には  
デメリットも

自責

孤立

分断

管理統制

負担増

# 人が問題ではない。問題が問題だ。

では、どういうアプローチをしていくか

**ナラティブ・セラピー** の方法がいくつか使えそう

**基本的な考え方**

**人が問題ではない。問題が問題だ。**

- 人は多くのストーリーから自分を作り／作られている
- 問題状況では、あるストーリーが優勢となり、別の側面が見えにくくなる
- 別の望ましいストーリー(オルタナティブ・ストーリー)に光を当てる援助をする
- 知性とモラルを持つ人(児童生徒・教師・保護者)が「問題」に困らされていると考える



# 外在化する会話

人の内部にある問題と思われるものを外部に位置付けること

外在化を促進する会話術を **外在化する会話** と呼ぶ

⇒ 「問題」「二人の争い」「それ」と呼んだり、問題に名前を付けたりする

君をそこまで苛立たせたのは、どんなことだったの？

問題をその人のせいにならずに話せる

そのせいで、君は他にどんな嫌なことに会ってる？

誰かのせいにならずに問題の影響を聞ける



先に仕掛けたのはあっちだろ  
いつもオレが悪いのかよ

あいつら、前からコソコソ隠れて  
オレをバカにしてんだよ

毎日学校来るのがだるくなるね  
まあ、別にいつもじゃないけど

影響を評価する立場になると  
**従属的ストーリー**につながる例外が出やすい

# 従属的ストーリーを探る

それまで優勢であったストーリーで見えなくなっていた  
より好ましい別のストーリーを発見していく

この問題に左右されない  
こともよくあるってこと？

もっと大事にしていること  
があるように聞こえるけど

それは良いこと？



そんなの気にしてたら  
時間の無駄だろ

一応、学校でやること  
はやっておきたい

当たり前だろ

価値

望み

エージェンシー

従属的ストーリーを探り当てたら、質問をして広げる



## ① 傾聴後、ホワイトボードに書き出す

要約によって、理解を確認⇒語りの尊重  
参加者全員で話を聞く⇒佐々木先生の尊重

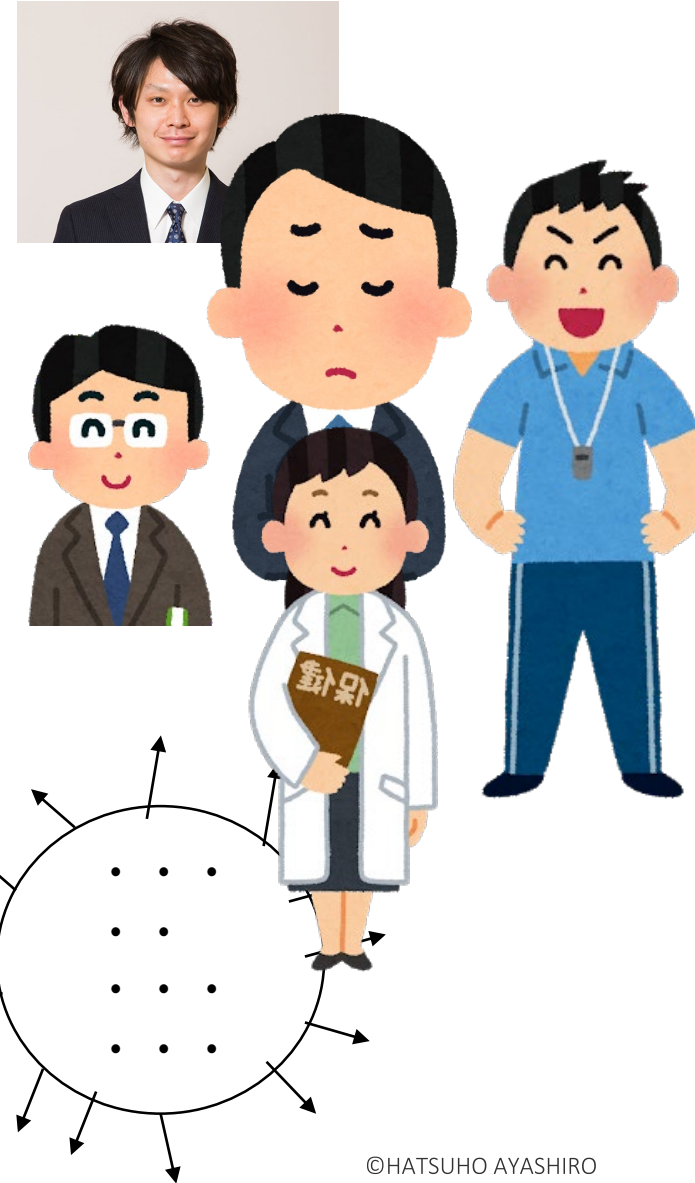
## ② 先生の手言葉をそのまま使う

**経験に近い描写(7, 8)**を使うことで当事者中心の  
協働関係と現状認識ができる

## ③ 影響を矢印で表す

外在化が自然に導入でき、**誰も責めないで**  
話し合える

# 実践の流れ





## ④ 右側にも円を描く

従属的ストーリーの余地を作る

北川さんに複数の側面があることが分かる

## ⑤ 線を円に向ける ⑥ 名前を付ける

北川さんの良い側面を一つの「現実」にする

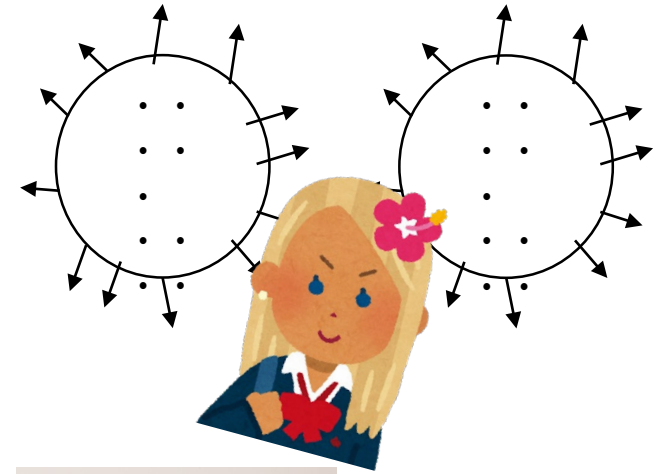
## ⑦ どちらの円が好きか選んでもらう

教師のエージェンシーを維持する

## ⑧ できそうなアイデアを探す

協働してプラン作りができる

# 実践の流れ



# 同僚の声が従属的ストーリーを開く

佐々木先生は他の教師たちの個々のエピソードに刺激されて従属的ストーリーを語り始めた

=ポリフォニー的<sup>(9)</sup>

認めてほしいって思いがあるんだと思います

そういう意味では  
かわいらしいところもあります

卒業アルバムとか…  
母親に感謝してるとか…

前にも聞いたはずなのに  
忘れていて

忘れていた良い事実が前面に

本来は人の気持ち  
が分からない子ではない  
と思うんです



# ローカルな知が解決をもたらした

いまはあまり方法  
が浮かびません



電話以外に  
手紙とかもあると  
思いますが



どこでも使えるわけではないが、  
その領域では効力がある知のこと  
「知恵は蟻塚に発する」(7)

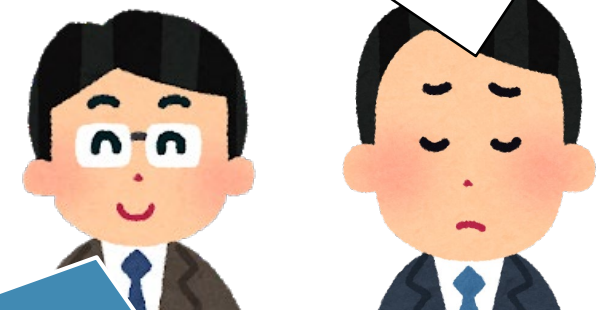
企業訪問の  
事前調べは？

それはできる  
と思います



屋形船を  
やりたいと

周りも文句言うだろ  
うし、本人も人前で  
言われると嫌がる



一対一の時だけは？

# 教員支援のこれからのために

## 同僚の協働を支えることの重要性

- 同僚の声もローカルな知も、現場に役立つが見えにくい従属的ストーリー
- 誰も責められずに話し合うことがもたらす意義を過小評価しない

## 専門家ポジションの省察

- 専門家の支援は、対話促進と仲介（⇔ 知識伝達と介入）
- 問題の発見よりは、マナーに基づいた方が良い（気がする）
- 社会正義<sup>(10)</sup>をどう考えるかは課題

- 「ひとり親家庭は養育に問題」という考えに沿った対応策が採用されている
- 当事者の北川さんを話し合いから除外

1. ウィンズレイド, J. ウィリアムズ, M. (著) 綾城初穂 (訳) (2016). いじめ・暴力に向き合う学校づくり——対立を修復し、学びに変えるナラティブ・アプローチ 新曜社. (Winslade, J. & Williams, M. (2012). *Safe and peaceful schools: Addressing conflict and eliminating violence*. Corwin press.)
2. 文部科学省 (2022). 生徒指導提要 (改訂版) [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1404008\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm) (2024年11月23日取得)
3. Ayashiro, H. (2021). A case study of a consultation using the two-circles method with a junior-high school teacher. *Japanese Psychological Research*, 63(4), 434-448. <https://doi: 10.1111/jpr.12342>
4. 綾城初穂 (2023). ナラティブ・セラピーを用いた保護者支援——2円法による学校場面での連携事例 N: ナラティブとケア, 14, 64-71.
5. Ayashiro, H. (2024). A case study on online consultation based on the two-circle method. Poster presented at the 33rd International Congress of Psychology in Prague, Czech Republic (ICP 2024).
6. 綾城初穂 (2022). ナラティブセラピーに基づいた教員へのコンサルテーション事例の検討——オンライン会議によるアプローチの有用性と課題 日本心理学会第86回大会. (ポスター)
7. ギアーツ, C. (著) 梶原景昭 (訳) (1999). ローカル・ノレッジ: 解釈人類学論集 岩波書店. (Geertz, C. (1983). *Local Knowledge*. Basic Books.)
8. パレ, D. (著) 能智正博・綾城初穂 (監訳) 国重浩一・バーナード紫・平野真理・北村篤司・広津侑実子・横山克貴 (訳) (2021). 協働するカウンセリングと心理療法——文化とナラティブをめぐる臨床実践テキスト—— 新曜社. (Paré, D. (2013). *The practice of collaborative counseling & psychotherapy: Developing skills in culturally mindful helping*. Sage publication.)
9. バフチン, M. (著). 望月哲男・鈴木淳一 (訳) (1995). ドストエフスキーの詩学 筑摩書房. (Бахтин, М.М. (1963): Проблемы поэтики Достоевского. Советский писатель, Москва.)
10. 和田香織・杉原保史・井出智博・蔵岡智子 (編) (2024). 心理支援における社会正義アプローチ——不公正の維持装置とならないために 誠信書房